



加藤 博徳 議員



豪州（ブッシュレンジャーズ）高校生中心の強豪チームとの交流試合前のセレモニーより

スポーツ・文化・観光推進部署設置は

問 国体が町内で三種類が実施された。

実績を一過性にするのではなく、継続するのが大切だと思う。愛媛県は今年度よりスポーツ・文化部を設置する。松前町もそのような部署が必要と考えるが理事者の考えは。

答 町長

昨年のえひめ国体の開催により、スポーツの持つ魅力を体験し、共有することができた。今後は、大いに盛り上がったこの機運を継続し、また、更に高めながら、まちづくりに活用していく必要がある。

ホッケーのまちづくり

に取り組み、これまで実施してきた松前ホッケークラブの育成や、町内小中学生を対象としたホッケー体験のほか、来年度は新たに、まさきホッケースポーツ少年団を設立する。ホッケー競技人口の増加と競技力の向上

に努める。

現状では愛媛県のような専門部署を設置することは困難である。社会教育課を中心に、スポーツ、文化、観光を担当する部署が連携を取りながら、各種の関連施策を実施する。

災害対策費は

問 災害対策に莫大な費用がかかるので実施しないでは、安心して松前町に住むことはできない。町内どこでも安心して住める松前町であってほしい。災害対策費用額はいくらか。

答 産業建設部長

9月の台風18号では、長尾谷川の河口部周辺で多くの床上浸水が発生した。公共下水道事業

の雨水計画は、平成20年度当時に算定した概算で約47億円。内訳は、「江川ポンプ場」の建設費が約25億円、水路整備や管渠整備などの関連費用が約22億円。現在では、約56億円程度の全事業費になる。財政的に厳しい状況であることから、事業の実施に至っていない。

今年度は、長尾谷川の右岸となる筒井地区を対

象に、地形的な弱点や水路のネック箇所を的確に把握し、既存の排水路網やポンプ施設を有効活用する前提で、効果的かつ財政的に実施可能な浸水対策計画を策定している。

対策工法や費用の想定額については、現在、報告書の取りまとめを行っている段階で、将来的には策定した計画に基づき施設の改修を行うことで、

浸水常襲地区の被害軽減が図られる。

また、改修後の浸水軽減効果を検証するとともに、長尾谷川の左岸地区も、公共下水道事業の雨水計画の見直しを行い、効果的な雨水対策を検討する。

※その他の質問については、22ページにも掲載